
手

金魚さん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】 手

【Nコード】
N6461C

【作者名】
金魚さん

【あらすじ】
ちよつと手を眺めてみて下さい。なんで、こんなに醜いんだろう
と思いませんか？節に不恰好な塊が付き、そこからグロテスクに伸
びる皺と節と透けて見える血管に覆われた指。けれども、なぜこん
なに手は、魅惑的なんだろう。……短いので、最初の百五十文字は
読まないで。

（前書き）

グロいかも。注意して。目安としては、MTGよりちょっと下ぐらい？

男（少年、もしくは青年？）と、人々を交互に書いてます。
読みにくいのは、仕様ですw

今、僕の手の中が熱い。
別に、火傷したわけじゃない。
思いつきり握り締めたこぶしから、煮えたぎった血が溢れている。
だから、手の中が熱いんだ。
醜くも、美しい手が。

手？

ああ、とても大切なものだね。
人が人へと進化する上で、もっとも大切だったものの一つだろう。
いや、手、というより、指、か。
それでそれがどうしたんだい？

指から、血が滴っている。

こいつは、何にもわかつちやいない。
指じゃない。

大事なものは、手なんだ。

よく言うだろう？

最も大切なものは血さ。

命の象徴、命の源。

その前では何者も霞む。

血じゃない。

血は命じゃない。

大切なものは、手なんだ。

命は、血じゃないんだ。

だから、なんだというんだ、君。
人の持つもの？

知性、そして理性だろう。
君の持たないものだよ。

だめだ、話にならない。

僕はそいつの顔を殴る。

一発だけ。

そして…。

大事なもの？

決まってるでしょ。

美貌よ。金よ。

猿との決定的な違いはそれ。

さ、早く帰って。

僕はそいつも顔が原形をとどめぬほど殴り、

手を、腕ごと切り取る。

わかるかい？

腕が大事なんじゃない。

けれど、腕からなんだ。

手だよ。

神が人に与えられたもの。

それは手だよ。

だって、こんなに美しくて醜いじゃないか。

そして、神が口付けを許してくれるのも、手だよ。

はは、足は違う。あれは神への隷属の証さ。

口付けじゃない。

最後にもう一つ。

愛しい人を掻き抱くのもまた、手だよ。

やっと、会えた。

この人は、手を理解している。

酷使するためのものではない。

眺めるためのものでもない。

神へ、恋人へ、捧げるためのものだ。

さあ、彼の手を切り落とし、僕の手と付け替えよう。

痛い痛い痛い。

なぜ、僕が手を切り落とさなければいけないんだ？

手、手、手！

あの質問で自分の手を愛し始めていたのに！

僕の手を、自分の手と挿げ替えるなんて！

痛い痛い痛い！

仕方が無い、奴の手をつけよう…

さあ、これで準備は整った。

さあ、神よ、この手で、私の命とこの手を貴方に奉げよう。

そしてまた、私は自分の手に戻り、また手を捜そう。

手の価値を知るものの手を。最上の供物を。

私は死ぬ。命を奉げて。

けれど、神よ、貴方への供物は絶やしません。

手の魔力に憑かれたら、すべてみな私になるのだから。

あの人はすでに、手の狂気に憑かれ始めている。

（後書き）

気分悪くなったらごめんなさい。

手を眺めてて、突発で書いたので短いです。

今後機会があれば、これを膨らました長編も書きたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6461c/>

手

2010年12月14日20時57分発行